



2025年 5月294号

ふるさと



グループホームあじさい園

「一人に一台一生寄り添うスマートロボット」

国のムーンショット型研究開発事業として、2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動、人と共生するロボットを実現する、という目標があります。少子高齢化の進行と、医療・介護の現場での人手不足などから、一人一人に寄り添い、一台でさまざまな作業をこなすロボットの実現です。現在のロボットは複数のタスクをこなすことはできず、人との接触到適した柔らかさ・繊細さとパワーの両立も果たされていません。人工知能（AI）をロボットの制御に用いるには、実世界の物事とデータの関連性をいかに持たせるかが課題です。倫理的・法的・社会的課題や国際的視点から、ロボットと人の共生のあるべき姿を探る必要もあります。

2050年に、ビジネス、家事、介護、看護、治療を自律的に実行可能なスマートロボット（アイレック）を実現することを目指して、開発されています。具体的には、ビジネスにおける接客、家事タスクとして調理・洗濯・清掃など、介護タスクとして移乗支援・清拭・食事介助など、看護タスクとして検査・案内・点滴交換など、診断・治療補助タスクとして自動検査・手術支援などです。身体と制御システムでは、人と接触可能な柔らかい身体構造を備え、自己修復機能を有するスマートロボット。知能システムについては、AIの理解を深め、ロボットが人の感覚運動を学習して高難度タスクを実現し、人との情動コミュニケーションがとれること。福祉・医療への展開技術の構築として、治療・看護・介護支援の自動化と、この分野のタスクに順応するロボットハンドの開発です。

ロボットの革新・AIの革新・社会実装・社会ニーズの分析、の各専門家が結集してこのプロジェクト（ロボットの機械的柔軟性・AIによる環境適応性・実空間での柔軟な身体知・相互誘導型コミュニケーション知能）を成功させようとしています。2050年には必ずこまで行こう！という、未来のために、難易度の高い目標を掲げ、研究室の中で必死に取り組んでおられる頭脳集団（研究者）に心から敬意を表し、エールを送り、成功を祈ります。

5月の行事予定

5日（月）端午の節句

20日（火）誕生日会

25日（日）食事会

※塩田医師の定期往診もあります。

あじさい園のホームページもご覧ください。



春のお花見ドライブ

今年も桜に会いに高円山ドライブウェイへ赴きました。

「1年振りに会えたわあ！」と感動の声を上げてくださりパシャリと記念撮影♪おやつも堪能し来年の再会を約束しながら少し名残惜しい気持ちを抱え帰路につきました。



昼食会は牛丼

オレンジカフェすいもんでティータイム



職員が腕によりを掛けて作った牛丼を皆様に振る舞いました。柔らかい牛肉と甘辛いタレがよく絡み、チェーン店にも負けない味となりました！「噛んでも良いぐらいお肉柔らかいで」と喜びの声を聞く事が出来ました。

